

当面の日程

- 7日 青年女性地域別交流会・但馬丹波地区
(養父公民館)
7～8日 自治労春闘討論集会 (TOC有明)
11日 青年女性地域別交流会・神戸阪神地区
(中央区文化センター)
13日 青年女性地域別交流会・北播中播地区
(社公民館)
14日 青年女性地域別交流会・海岸線西播地区
(姫路労働会館)

自治ひろこ



全日本自治団体労働組合 兵庫県本部

〒650-0004 神戸市中央区中山手通3-4-8 大東ビル TEL078-392-0820 FAX 078-392-0920
http://www.jichiro-hyogo.jp/ E-mail:jhyogo@jichiro-hyogo.jp

1642号

2023. 12. 1

月2回(1日、15日)発行 定価10円

購読料は組合費に含まれる。

自治労兵庫県本部

書記長／尾西亮太郎・編集人／秦 信昭

県市町振興課交渉

会計年度も含め完全実施を確認し 市町への強い助言を要請

私たちの勤務・労働条件に関しては、労使合意を基本に決定しているが、その内容について「助言」という形で、自治体当局に働きかけをしていくのが、県総務部市町振興課である。

市町振興課は国家公務員に準拠することを基本に、それを上回る条件を持つ市町に対して「適切に対応するよう」に「助言」を行うのである。

自治労兵庫県本部は、年2回この市町振興課に申し

入れを行い、協議の場を持ち、市町への助言内容や勤務・労働条件に関する見解を確認している。

今年も賃金確定闘争期に合わせ、10月31日に兵庫県庁内において協議を行った。

例年どおり、未払い賃金や安全衛生委員会の未実施など市町の法令違反は正への助言の要請や、ラスパイレス指数に関する見解を質した。

さらに、会計年度任用職

員への人勧適用について、4月週及を含め正規職員に準ずることが基本であることを確認し、強く市町へ助言するよう要請した。



県の見解を求める交渉団



晴天のもと4年ぶりに屋外で開催

県本部は11月1日、県庁前県民オアシスで、確定闘争勝利をめざし、決起集会を4年ぶりに屋外で開催。情勢を共有し、ヤマ場に向けた意思統一を行った。

山下忠之委員長は「引き上げ勧告されたが物価上昇幅に見合った賃上げになっていない。また、会計年度任用職員への4月週及適用も、同一労働同一賃金に向け全単組一丸となり闘争を進めよう」とあいさつし、続いて尾西亮太郎書記長は10月31日に行った県市町振興課交渉に触れ「人勧完全実施については会計年度も含めた週及改定するのが当然であるとの見解が示されている。全単組での交渉強化を要請する」との情勢報告を行った。

各ブロック代表決意表明では、県職労の井上敬太さんは「全世代の賃金水準引き上げ、会計年度任用職員への期末手当の引き上げと勤勉手当の支給を求め、交渉に臨む」とし、神戸市従の徳留慎治さんは「実質賃金引き上げを求め、神戸市

確定闘争県本部決起集会

会計年度の週及改定は当然

全単組が一丸となり交渉強化

労連に結集し、納得いく回答を引き出すため諸課題について粘り強く取り組んでいく」また、三田市職労の植崎潔さんは「三田ではこ

の間、当局から一方的に給与改悪された。こうした攻撃を阻止するためにも議会での発言力が必要であり、橋本維文さんを組織内予定候補として擁立し、議会対策強化を行う」さらに佐用町職の瀬戸博英さんは「職員数の確保が大きな問題となっている。初任給の改善と在職者調整、中途採用者の格差是正の実施。また地域手当の格差問題の解消をめざす」とし、最後に香美町職の井口能孝さんは「組合役員の2年任期制を確立

し、組合員の交流を重視している。組合に入って良かったと思われるよう、引き続き活動していく」と力強い決意が表明された。

青年・女性 職場の問題と向き合い改善を 対県交渉を寸劇でポイント解説

青年部・女性部は11月1日の午前中に県内から29単組69人が参加し、確定決起集会を開催した。集会冒頭、

今村龍乃介青年部長は「実質賃金下がっており、物価以上の賃上げが必要。また、職場の問題は自分だけの問題ではなく、あとから入ってくる人にも影響がある。今こそ、問題と向き合い、独自要求への取り組みへとつなげてもらいたい」とあいさつした。

その後、今年の2月に実施した青年部女性部合同での県市町振興課交渉について、青年部女性部常任委員

が寸劇を行い、実際の交渉のやり取りを伝えた。交渉のポイントになる部分では、北脇修平青年部書記長が解説を行い、参加者は対県交渉への理解を深めた。



常任委員による寸劇の様子

選挙違反や国民の義務である納税をしない副大臣まで出てくる始末。開いた口が塞がらないとはこのことだ。任命権者である岸田総理の指導力のなさが浮き彫りになっている▼日本のプロ野球は一流になったが、相変わらず政治は三流のまま。いつになったら二流になるのでしょうかね。

日米のプロ野球シーズンが終わったが、相変わらず、オオタニさんだけは、次の契約球団をめぐり、ニュースや新聞紙上にぎわしている。日本人が大リーグで最高年俸を稼ぐことになるとは、つい最近まで誰もが思わなかっただろう▼では、大谷選手を誰がここまで育てたか？私は間違いない日本ハム時代の栗山監督だと思ふ。栗山さん以外はプロ野球で二刀流を認めなかった。今年は、彼が監督をして侍ジャパンを世界一にした▼一方、政治はどうだろうか。相次ぐ副大臣ク拉斯の不祥事による辞任、選挙違反や国民の義務である納税をしない副大臣まで出てくる始末。開いた口が塞がらないとはこのことだ。任命権者である岸田総理の指導力のなさが浮き彫りになっている▼日本のプロ野球は一流になったが、相変わらず政治は三流のまま。いつになったら二流になるのでしょうかね。

いまいち座

～楽屋裏の雑言～

ここまで来たか 担い手不足



吉田ノボ

播磨ブロック総会

会計年度の4月遡及と勤勉手当
支給の実現を全体でめざす

播磨ブロックは10月28日、34単組82人の参加のもと第53回定期総会を姫路勤労市民会館で開いた。開会あいさつに立った足立育生議長は「総会では『うまくいったこと、いかなかったこと』を忌憚なく出していただき、互いの実践に学び合いたい」と参加者に議論を呼びかけた。

23年度経過報告を大岡久典副委員長、24年度運動方針を北川寿一事務局長が提起。直面する確定闘争をめぐっては、会計年度の勤勉手当支給と4月遡及を実現すること、そして県本部全体で取り組みを進めていることを確認した。



34単組82人が参加した

全日本自治体退職者会兵庫県本部（兵退連）は、10月25日、明石市において第48回定期総会を開催した。今年の定期総会では、活動報告の中で、65年の長きにわたって活動してきた、尼崎市退職者互助会が解散することから、その後継組織「尼崎市職員退職者春秋会」結成に向けて、兵退連が支援した取り組みが報告

兵退連総会
後継組織の結成を支援
会員拡大の取り組みが課題

された。現在、全国の退職者会組織では会員の高齢化と新規加入減による会員減が課題となっている。総会では、今後、現役組合と連携を深め、会員拡大に向けて取り組むことなどの新年度活動方針と向こう2年間の新役員体制も確認し総会を終えた。



1年間の運動方針を全体で確認

阪神淡路ブロックは10月25日、南あわじ市福良地区公民館で第53回総会を開催した。戎剛議長に続き、来賓あいさつを受け、23年度活動・会計報告の承認を受け、24年度活動方針案と会計予算案の提案を行った。11単組14人からの発言・補強を踏まえ、方針・予算を確立し、当面する闘争方針では、人事院勧告に基づく会計年度の賃金、一時金の引き上げに関して、ブロックに結集し取り組みを強化することを全体で確認した。発言の概要は次のとおり。

【川西市職労】 水道部会の取り組み報告と部会以外の参加の呼びかけ。

【宝塚市職労】 統一自治体選挙の支援お礼。

【三田市職労】 病院部会の取り組み報告。

【宝塚市職労】 予算案の活動費減は理解するが、会議の回数等活動内容が適当かどうか不明。非組合員との差別化に悩んでいる。

【芦屋指導員】 統一自治体選挙の支援お礼。3単組共同による各闘争の成果。長年採用がなかった2級指導員の募集は、雇用不安を取り除く明るい材料になった。

但馬丹波ブロック総会

ヤマ場に向け意思統一
会計年度の諸課題解決に力点を

2年間の新役員体制を確立

但馬丹波ブロックは11月10日、豊岡市内で第53回定期総会を開催し、経過報告、運動方針、当面の闘争方針を執行部が提起し、賛成多数で承認された。山本陽一議長は「各単組での確定闘争はヤマ場を迎えているが、人勧完全実施

に向け、交渉を強化していかなければならない。また、会計年度任用職員制度については、導入後3年半が経過し、多くの問題点も出てきている。検証を含め問題点の洗い出しを進め、人勧実施を含めた諸課題について交渉してほしい」とあいさつした。

役員改選では、山本議長を再選。副議長の富田真也に就任した。

さん、隅田龍さん、梅垣耕平さんが退任し、新たに中川敬市さん（丹波篠山市職労）、米分直樹さん（豊岡病院労組）、会計に足立勝弘さん（丹波市職労）、事務局長は岡和巳さんが退任し、事務局次長の村尾友和さん（八鹿病院職組）が就任し、事務局次長に岡山慎さん（養父市職労）が新たに就任した。

自治労組合員のみなさんへ

広げよう!!

たすけあいありがとう

キャンペーン

キャンペーン期間 ※抽選は2回に分けて実施します。
2023.10.1・2024.5.31

自主福祉運動は、組合員自らの手で「助け合い」を形にする共助の運動です。助け合いの輪が大きくなるほど、ひとりひとりの安心も大きくなります。自治労は、非営利の生活協同組合である「じちろう共済」の各種共済を助け合いの共済として推進しています。「じちろう共済」は、2023年6月に「こくみん共済 coop」と統合10周年を迎え、自治労はさらに助け合いの輪を広げるために「広げよう!たすけあい ありがとうキャンペーン」を実施します。

組合活動に参加してキャンペーンに応募しよう!

キャンペーン期間中に、組合で開催する自主福祉運動や共済制度に関する学習会等へ参加していただいた組合員を対象に「抽選」で賞品を進呈します。また、抽選キャンペーンへの応募1件につき、100円を子ども食堂に寄付します。詳しくは組合までお問い合わせください。

抽選で賞品が当たる!

世界的人気商品 / Hydro Flaskのボトル

あなたの参加が子ども食堂への寄付に!

自治労本部 共済推進委員会

全労済自治労共済本部資料より引用